

令和6年度千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」

(応用コース)第4期生 募集要項

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」は、現在オールジャパンで展開されている農業と福祉双方の課題解決を図る取組みとしての農福連携に、当センターがこれまで取り組んできた「環境・健康・食」に関する教育研究活動の成果を加えた“多様な”農福連携活動を企画・運営できる人材を持続的に育成するシステムを構築することを目的としたプログラムです。令和6年度は応用コースのプログラム受講生（第4期生）を下記の要領で募集します。

1. 概要

本プログラムは、多様な農福連携プログラムを企画・運営するための実践的な知識・能力の獲得を目指す講義・演習を組み合わせたカリキュラムになっており、当センターの強みである「植物とヒトとの関わり」についてより深く学び、福祉事業場をはじめとする農福連携の現場に関わる講師との講義・演習に参加することにより、農業と福祉の連携に関する課題を現場レベルで理解し、解決のための提案ができる人材の育成を目指します。さらに、受講生自らが農福連携に関する活動成果を発信することで、地域連携を推進し、以てSDGsの実現に寄与できる企画の立案・運営を行っていただく、合計60時間のプログラムになります。（対面とオンラインの併用を予定しています。）

プログラム修了後は、栽培に関する一連の知識を習得（農業検定3級程度相当）し、併せて農福連携の現場に自らコミットし、活動を企画・実施できる能力を身に付けることを想定しています。また、各演習等を通じて、より高度な分析評価能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力を身に付けることを期待しています。

2. 応募資格

原則として、「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（導入コース）」を修了した方、及び、実際に農福連携に関わる活動に従事している方、とします。不明な場合には、ご相談ください。

※オンラインのみでの参加も可能です。応募の際にその旨お申し出ください。

3. 募集定員

対面：10名程度

オンライン：10名程度

応募書類を選考の上、令和6年4月1日（月）以降速やかに選考結果を連絡します。

4. 応募方法

（1）応募書類

「令和6年度多様な農福連携プログラムに貢献できる人材育成プログラム（応用コース）」応募用紙

※応募書類は、千葉大学環境健康フィールド科学センターウェブサイトよりダウンロードすることができます。

URL : <http://www.fc.chiba-u.jp/rishuushoumei/>

(2) 応募期間

令和6年3月1日(金)～令和6年3月26日(火) (必着)

(3) 書類提出先

メールの場合 : field-jinji@chiba-u.jp ※件名の先頭に【受講希望】と記入願います。

郵送の場合 : 〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

千葉大学環境健康フィールド科学センター(柏の葉地区事務課) 総務係 宛

※「千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム応募書類在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送願います。

※応募にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、本学において、履修生の管理業務、本プログラムに関する情報提供等、これらに付随する業務を行うためのみに使用します。また、取得した個人情報は適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

5. 修了の要件

履修証明プログラムとして設定された実習・演習・現場体験計 60 時間すべてにおいて、それぞれの修了要件を満たすこと。本プログラムを修了した場合、履修証明書を授与します。なお、単位の授与はありません。

6. 受講料及びその他費用について

(1) 受講料 60,000 円

※受講決定通知後、令和6年4月26日(金)までに振り込みをお願いします。なお支払われた受講料は、プログラムを途中で辞退された場合も含めて、原則返金いたしません。

(2) その他

本プログラムで実施する対面授業等に参加する交通費・宿泊費等は自己負担となります。

対面授業は、千葉大学環境健康フィールド科学センター(柏の葉キャンパス)で実施することを予定しています。

7. 今後の日程について

(1) 応募書類締切	令和6年3月26日(火) 必着
(2) 選考結果通知(振り込み案内の送付を含む)	令和6年4月1日(月)以降
(3) 受講料の支払い(60,000 円)	令和6年4月26日(金)まで
(4) 対面／オンライン授業期間	令和6年4月13日(土)～8月24日(土)
※初日に開講式、最終日に修了式を行います。	
(5) 履修証明書授与	所定の手続きを経た後、郵送します。

8. 問い合わせ先

千葉大学環境健康フィールド科学センター(柏の葉地区事務課) 総務係

〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

TEL : 04-7137-8000 Mail : zao8006@office.chiba-u.jp

履修証明プログラムの構成・シラバス・日程表

●多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（応用コース）

（１）構成

講座名等（案）				
応 用 コース	コース名	講義形態	時間	講義担当（ ）内は所属 学外講師の演習にはセンター教員がコーディネーター として参加
	○農作物と農福連携	講義・演習	3	野田勝二（千葉大学環境健康 FSC）
	○取組事例から学ぶ （マッチング支援の取組）	講義・演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 沖村さやか（一般社団法人クロスオーバー）
	○取組事例から学ぶ （企業による取組）	講義・演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 鈴木崇之（帝人ソレイユ(株)）
	○取組事例から学ぶ （農業法人による取組）	講義・演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 笠間令子((株) 笠間農園)
	○取組事例から学ぶ （障害福祉事業所による取組）	講義・演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 内野美佐（社会福祉法人土穂会・ピア宮敷）
	○障害者福祉論、障害者就労支援と 農福連携	講義・演習	3	小泉隆文（名寄市立大学）
	○自然栽培基礎	講義・演習	3	小林寛利（VEGIMO GROUP）
	○農を通じた認知発達の促進 （知的発達障害者）	講義・演習	3	前川哲弥（株式会社夢育て & NPO法人ユメソダ テ）
	○農作業分析と障害への支援	講義・演習	3	豊田正博（兵庫県立大学）
	○ブランディングデザイン論	講義・演習	3	渡邊慎二（千葉大学工学研究院）
	○大人の発達障害に対する理解と支 援	講義・演習	3	大島郁葉（千葉大学子どものこころの発達教育セ ンター）
	○地域共生社会の実現に向けた取り 組みと農福連携への期待	講義・演習	3	宮脇文恵（宇都宮短期大学）
	○農福連携における園芸福祉の実践	講義・演習	3	渋谷雅史（NPO 法人土と風の舎）
	○農福連携の現場におけるコミュニケー ションと関係性の構築	講義・演習	3	今枝稚加良（自然農福の力）
	○ユニバーサル農業と GAP の導入効 果	講義・演習	3	中本英里（農研機構西日本農研センター）
	○ベンチャーアグリビジネス論	講義・演習	3	大林修一（（株）プラネット）
	○農福連携におけるマーケティング、販 路の作り方	講義・演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 松浦智紀（（有）サン・スマイル）
	○農福連携におけるブランディングの実 践	講義・演習	3	川田勝也（（株）エススリーブランディング）
	○取組事例から学ぶ （認知症高齢者等のための取組）	講義・演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 宇良千秋（東京都健康長寿医療センター研究所）
	○修了式・発表会	演習	3	野田勝二（千葉大学環境健康 FSC） 吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）

※講義・演習は受講生の希望により「対面双方向」・「オンライン双方向」・「オンデマンド」のいずれか又は併用で行う。

開講初日に開講式、最終日に受講生によるプレゼンテーション、修了式を実施する。

(2) 開講日程表

原則隔週土曜日開講 1日6時間 (9:00~12:00、13:00~16:00)

月日	午前 (9:00-12:00)	午後 (13:00-16:00)	備考
4月13日	【農作物と農福連携】 野田勝二 (千葉大学環境健康 FSC)	【取組事例から学ぶ：マッチング支援の取組】 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院) 沖村さやか (一般社団法人 クロスオーバー)	【開講式】
4月27日	【取組事例から学ぶ：企業による取組】 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院) 鈴木崇之 (帝人ソレイユ(株))	【取組事例から学ぶ：農業法人による取組】 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院) 笠間令子((株) 笠間農園)	
5月11日	【取組事例から学ぶ：障害福祉事業所による取組】 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院) 内野美佐 (社会福祉法人土穂会・ピア宮敷)	【障害者福祉論、障害者就労支援と農福連携】 小泉隆文 (名寄市立大学)	
5月25日	【自然栽培基礎】 小林寛利 (VEGIMO GROUP)	【農を通じた認知発達の促進：知的発達障害者】 前川哲弥 (株式会社夢育て&NPO 法人ユメソダテ)	
6月8日	【農作業分析と障害への支援】 豊田正博 (兵庫県立大学)	【ブランディングデザイン論】 渡邊慎二 (千葉大学工学研究院)	
6月29日	【大人の発達障害に対する理解と支援】 大島郁葉 (千葉大学子どものこころの発達教育センター)	【地域共生社会の実現に向けた取り組みと農福連携への期待】 宮脇文恵 (宇都宮短期大学)	
7月13日	【農福連携における園芸福祉の実践】 渋谷雅史 (NPO 法人土と風の舎)	【農福連携の現場におけるコミュニケーションと関係性の構築】 今枝稚加良 (自然農福の力)	
7月27日	【ユニバーサル農業と GAP の導入効果】 中本英里 (農研機構西日本農研センター)	【ベンチャーアグリビジネス論】 大林修一 ((株) プラネット)	
8月10日	【農福連携におけるマーケティング、販路の作り方】 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院) 松浦智紀 ((有) サン・スマイル)	【農福連携におけるブランディングの実践】 川田勝也 ((株) エススリーブランディング)	
8月24日	【取組事例から学ぶ：認知症高齢者等のための取組】 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院) 宇良千秋 (東京都健康長寿医療センター研究所)	【発表会・修了式】 野田勝二 (千葉大学環境健康 FSC) 吉田行郷 (千葉大学園芸学研究院)	

(2) コースの概要 (各3時間)

農作物と農福連携	
キーワード	園芸作物、果樹、加工、農作業
概要	農福連携に適した作物の特徴、栽培や加工の基礎、農作業と身体的負荷について解説する。適した農作物や加工品についての提案を行う。
開講日	4/13
担当	野田勝二（千葉大学環境健康フィールド科学センター）
到達目標	農福連携に適した農作物や加工品の条件を理解する。
構成	授業2時間、演習1時間
修了要件	授業、演習に参加すること

取組事例から学ぶ（マッチング支援の取組）	
キーワード	農業と福祉の連携、経済性、GP、コーディネーター
概要	現状の農福連携の仕組みと優良事例をコーディネーターの視点から解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開講日	4/13
担当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 沖村さやか（一般社団法人 クロスオーバー）
到達目標	農福連携事業におけるマッチングの現状と課題を理解する。
構成	授業2時間、演習1時間
修了要件	授業、演習に参加すること

取組事例から学ぶ（企業による取組）	
キーワード	特例子会社、収益、生産性、やりがいと働く楽しさ
概要	現状の農福連携の仕組みと優良事例を企業の視点から解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開講日	4/27
担当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 鈴木崇之（帝人ソレイユ(株)）
到達目標	農福連携事業における企業での現状と課題を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

取組事例から学ぶ（農業法人による取組）	
キーワード	農業と福祉の連携、経済性、GP、農業経営者
概要	現状の農福連携の仕組みと優良事例を農業法人の視点から解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開講日	4/27
担当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 笠間令子（株式会社 笠間農園）
到達目標	農福連携事業における農業法人での現状と課題を理解する。
構成	授業2時間、演習1時間
修了要件	授業、演習に参加すること

取組事例から学ぶ（障害福祉事業所による取組）	
キーワード	農業と福祉の連携、社会性、GP、福祉作業所
概 要	現状の農福連携の仕組みと優良事例を障害福祉事業所の視点から解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開 講 日	5/11
担 当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 内野美佐（社会福祉法人 土穂会・ピア宮敷）
到達目標	農福連携事業における障害福祉事業所での現状と課題を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

障害者福祉論、障害者就労支援と農福連携	
キーワード	障害者総合支援法、就労支援、障害特性、ストレングス
概 要	障害者福祉に関する法制度について解説する。また、就労支援の現状や農福連携における支援方法をソーシャルワークの技術にも触れながら解説する。
開 講 日	5/11
担 当	小泉隆文（名寄市立大学）
到達目標	障害者福祉の体系や就労支援の現状と課題を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

自然栽培基礎	
キーワード	有機農業、代替農業、有機物循環
概 要	自然栽培の土壌管理、栽培管理の基礎を理解する。
開 講 日	5/25
担 当	小林寛利（VEGIMO GROUP）
到達目標	自然栽培における栽培管理方法を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

農を通じた認知発達の促進（知的発達障害者）	
キーワード	知的発達障害、生涯教育、認知発達、夢育て
概 要	知的発達障害者が、農作業を通じ、18 歳の壁を越え、認知的に成長できること・成長促進法と農作業との高い親和性について学ぶ。
開 講 日	5/25
担 当	前川哲弥（株式会社 夢育て&NPO 法人 ユメソダテ）
到達目標	農福連携実践現場の事例学習。認知的成長、それを促す方法の重要概念を身につけ、農作業との親和性の高さを理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

農作業分析と障害への支援	
キーワード	栽培管理、淡路式農作業分析表、作業難易度
概 要	淡路式農作業分析表を用いて農作業の難易度を可視化し、作業の正確さ・速さ向上の視点から障害への支援を考える。
開 講 日	6/ 8
担 当	豊田正博（兵庫県立大学）
到達目標	農作業を分解・分析して、作業難易度を理解するとともに、作業の正確さ・速さ向上の視点から障害への支援を考える力を身につける。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

ブランディングデザイン論	
キーワード	ブランドデザイン、ノフク JAS
概 要	製品の付加価値化のためのデザインの役割と意義、実例を挙げて解説する。
開 講 日	6/ 8
担 当	渡邊慎二（千葉大学工学研究院）
到達目標	生製品の価値を高める方法を提案できる。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

大人の発達障害に対する理解と支援	
キーワード	心理支援、発達障害、自閉スペクトラム症
概 要	発達障害の特性と、成人期の発達障害の特徴と支援法を紹介する。 演習は架空事例を取り上げ、検討する。
開 講 日	6/29
担 当	大島郁葉（千葉大学子どものこころの発達教育センター）
到達目標	発達障害の特性とそれに対する支援のあり方を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

地域共生社会の実現に向けた取り組みと農福連携への期待	
キーワード	社会的包摂、社会的孤立、相互実現的自立、伴走型支援
概 要	農福連携の取り組みを通して、お互いがお互いを気かけ合い、誰もが助け・助けられる「ケアリングコミュニティ」の形成をめざす社会のあり方を学ぶ。
開 講 日	6/29
担 当	宮脇文恵（宇都宮短期大学）
到達目標	地域共生社会とは何か理解し、自らを主体者として認識する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

農福連携における園芸福祉の実践	
キーワード	Well-being、コミュニティ、農園芸の効用
概 要	園芸福祉の実践領域と効果効用を解説し、農福連携の取組に活かす方策を学ぶ。
開 講 日	7/13
担 当	渋谷雅史（NPO 法人 土と風の舎）
到達目標	農福連携と園芸福祉の関係性を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

農福連携の現場におけるコミュニケーションと関係性の構築	
キーワード	自己肯定感、チームワーク、ジョブコーチ
概 要	現場での円滑な農福連携が行えるコミュニケーションについて、事例を挙げて解説する。
開 講 日	7/13
担 当	今枝稚加良（自然農福の力）
到達目標	現場におけるコミュニケーションと関係性を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

ユニバーサル農業と GAP の導入効果	
キーワード	作業環境、業務分担、農業経営
概 要	農福連携の取組効果を農業経営の視点から解説する。
開 講 日	7/27
担 当	中本英里（農研機構 西日本農研センター）
到達目標	営農における作業環境整備の現状と課題を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

ベンチャーアグリビジネス論	
キーワード	六次化、付加価値化、産直
概 要	農業に関わる新しいビジネスモデルの事例を学ぶ。
開 講 日	7/27
担 当	大林修一（株式会社 プラネット）
到達目標	農福連携に関わるビジネスモデルが企画できる。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

農福連携におけるマーケティング、販路の作り方	
キーワード	マーケティング、販路開拓
概 要	農福連携事業におけるマーケティング、販路開拓の方法について解説する。
開 講 日	8/10
担 当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 松浦智紀（有限会社 サン・スマイル）
到達目標	農福連携製品の特長を踏まえたマーケティング、販路開拓ができる。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

農福連携におけるブランディングの実践	
キーワード	六次化、地域連携、ブランディング
概 要	ブランドにおける新しい価値、農福に適したブランディング、地域連携施策を全国の実践事例で学ぶ。
開 講 日	8/10
担 当	川田勝也（株式会社 エススリーブランディング）
到達目標	農福連携でブランディングによる新しい価値を創出する能力を取得し、ブランディングを通じた地域連携の在り方について理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

取組事例から学ぶ（認知症高齢者等のための取組）	
キーワード	認知症、ケアファーム、社会参加、精神的健康
概 要	医療現場や地域における認知症高齢者等を対象としたケアファームのエビデンスや優良事例を解説し、一般化の可能性について検討する。
開 講 日	8/24
担 当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院） 宇良千秋（東京都健康長寿医療センター研究所）
到達目標	医療現場や地域でのケアファームのエビデンスと課題を理解する。
構 成	授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	授業、演習に参加すること

修了式・発表会	
キーワード	発表会、修了式
概 要	プレゼンテーションを通して、理解を深めビジョンを明確にする。 修了式を行う。
開 講 日	8/24
担 当	野田勝二（千葉大学環境健康フィールド科学センター） 吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）
到達目標	将来展望、今後の課題などを受講生、講師と共有する。
構 成	プレゼンテーション 2 時間、修了式 1 時間
修了要件	発表を行い、修了式に参加すること